

大日本国中ふ志ぎくらへ

弘化三（一八四六年）、版元藤波堂・三光堂のものを用いるが、随時発行されたと思われる。江戸時代に流行った各種番付表のひとつであるが、大関等の格付けはなく、中央、上に「為御慰」と大書し、以下縦に行司、年寄、頭取、勧進元を配し、東西（左右）に分けて五段に組み、下段ほど字形は小さくなるという一般的な番付表。

戸隠関係は次の通り。

信州 戸隠山

行

駿州 富士山

司

肥後 阿蘇山

左最上段（戸隠山は右より七番目、前後のみ掲ぐ）

常州 鹿島 事ふれ

信州 戸隠山 九頭龍神供

信州 小縣郡 浅間山のけむり

左二段目（戸隠山は右の一番目）

信州 戸隠山 拝殿ばかりの社

越中 魚津 志ん氣ろう

（以下略）

註 ネット上で時にみかけるが、安定的に提供している
サイトは不明。長野県立歴史館には所蔵。